

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3171200417	
法人名	株式会社 ソルヘム	
事業所名	陽だまりの家 ふなおか(新街)(西街)(東街) 及び まとめ	
所在地	鳥取県八頭郡八頭町船岡486-2	
自己評価作成日	令和4年11月25日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人未来福祉サービス評価事業部
所在地	鳥取県倉吉市東仲町2571番地
訪問調査日	令和4年12月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食事は楽しみの一つですので、たい焼きの日・お寿司の日・リクエストメニューを取り入れ利用者様に喜んでいただいている。
 毎月1日を避難訓練の日と定め、有時に応できるように取り組んでいる。
 下肢筋力が低下しないよう体操・施設内の歩行訓練をしたり健康維持・生活リハビリに取り組んでいる。
 コロナ禍で面会が出来ない家族様にも普段の様子を感じていただけるよう2か月に1度広報誌を送り、面会室の設置も検討している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の持てる力を充分に發揮している。例えば、元美容師の利用者が他の利用者に手際よくドライヤーを使ったり毛染めをし、月1回のリクエストメニューの日は元調理師の利用者が活躍し、お茶会では利用者が抹茶を点てる等、利用者の持てる力を十分引き出している。また、天気の良い日は窓越しで日光浴をしている。DVDの映像を見てなじみの体操をしたり、音楽に合わせて歩行訓練をし、筋力維持と気分転換に繋がっている。町立図書館から朗読CDや紙芝居・大きな絵本を届けてもらっている。また、週2回パン屋の移動販売の利用、シイタケの原木を購入して育てるなど、地域との交流をしている。敷地内の別棟に窓越し面会できるよう、面会室が建設された。月1回職員研修を実施し、ケアの質の向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができる (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない		

自己評価および外部評価結果 『新街』

★努力している点

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外 部	項目	自己評価	外部評価
		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念が玄関、事務所内に掲示しており、毎日朝礼・申し送り後唱和し、職員で共有している。	玄関と事務所内に理念を掲げ、毎日朝夕の申し送り時に唱和して職員で共有している。家庭的な環境のもと、利用者が精神的に安定して健康で明るい日常生活ができるよう支援している。
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われている行事には、コロナ禍で参加できていないですが、施設内での行事・イベントなどの行動は広報誌などを配りお知らせしている。	コロナ禍で地域とのつきあいは難しいが、近くの図書館から本、紙芝居、CD等が届くのを楽しみにしている。2ヶ月に1度の広報誌で、施設内の行事等を紹介し地域、家族との繋がりに努めている。
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所内の認知症の研修に取り組み、認知症の方への理解や適切なアドバイスができるようにしている。	
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催し、グループホームの取り組み、ヒヤリハットや事故事例の報告、地域とのつながりがもてる意見交換を行っている。	運営推進会議では、事業所の取り組み、ヒヤリハットや事故事例等の報告をして、双方向の意見交換を行っている。そこでの意見をサービス向上に活かしている。 サービス評価の結果から、目標達成計画を作成に当たり、運営推進会議のメンバーとも意見交換してみてはどうか。
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から包括支援センター等に出向き報告等を密にしている。	運営推進会議の時や、日頃から町の担当者や包括支援センター等に出向き、事業所の取り組みを伝え、協力関係を築いている。
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内の研修で身体拘束の勉強会を行い、身体拘束とはどんな事が当たるのかを再度しっかりと確認をし、マニュアルを理解し身体拘束防止に努めている。 3ヶ月に1度身体拘束適正化委員会を行い、職員に議事録を回覧している。	施設内研修会で身体拘束のマニュアルを理解し、身体拘束をしないケアに努めている。
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	施設内の研修を行い虐待の理解を深め防止に取り組んでいる。 虐待防止マニュアルも策定している。 12/1高齢者虐待防止委員会を立ち上げる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資格取得を推奨し、研修を受ける機会の確保に努めている。 研修案内を配布している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、家族、利用者様の不安、疑問が残らないように時間をかけて説明を行い、理解、納得を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様・家族様の要望や意見をお聞きする機会を設け会議等で職員に伝えて対応している。	利用者とは日常の生活の中で、利用者家族は運営推進会議・面会・電話等で意見や要望を聞き、施設運営に反映できるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	所長・管理者は、職員と面談を行い意見・要望を聞き取りまとめ管理者会議等で話し合いをしている。	施設内会議で出た意見は管理者が管理者会議で伝え、職員の意見が反映されるよう努めている。適宜職員面談をし、職員の思いを汲み取れるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている	勉強会研修を行いキャリアアップにつながるよう各職員が向上心を持って働くよう職場環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得を推奨し、研修を受ける機会の確保に努めている。 研修案内を配布している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナの為、相互研修は中止されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人と面談を行いアセスメントによる情報を把握している。利用者様お1人お1人とコミュニケーションをとり要望や困り事等を聞き、信頼して頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前、家族様とお話しして、要望をお聞きし、思いに寄り添うように努めている。入居後も変わったことがあればこまめに連絡している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族様等の要望を聞くだけではなく、前ケアマネ等の意見も参考にして支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の思いや不安を知り、共に支え合う関係をつくり、普段から本人のできることを一緒にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様と家族様の思いに寄り添いながら窓越しだが自由な面会や電話を通して密に支えあえる関係を築いている。家族様と情報共有をして信頼関係に力を入れている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者様の知人が来所されても気兼ねなくお話しできるスペース・空間を設けています。(窓越し面会)	窓越し面会の機会を設けたり、携帯電話で繋がったり、なじみの関係が継続できるよう工夫している。ドライブに出掛け、知人に会うこともある。最近、窓越しで可能な面会室を建設した。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様お一人お一人との関係をしっかりと把握したうえで日常生活の中で、一緒に洗濯物を干したりたたむなど、ご利用者様同士が関わりあえるように支援している。		

自己 外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された場合も必用に応じて家人様にその後の様子を尋ねさせていただき、アドバイスなどを行いフォローに努めている。		
23	(9) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様との会話の際に、昔のことなどをお聞きして安心して穏やかに生活できるようにしている。	★利用者と話しながらやりたいことを聞き出し、意欲を持ち挑戦できた事例が多くあり、意向の把握に努めている。家族からの情報も多く反映させている。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様・家族様から話を聞きし、情報アセスメントシートにて職員が情報共有できるようにしている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日、日々の様子を記録して全体での朝礼と各ユニットでの夕禮で入居者様の情報を共有し早めに対応できるようにしている。		
26	(10) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングを行い利用者様の変化を細かく記録している。変化のある利用者に対し、本人・家族様の意向を反映し計画書の作成を行っている。	日々の利用者の様子を分かりやすく記録している。月1回ユニット会議で利用者の様子を振り返り、モニタリングしている。計画の評価見直しは、職員の意見や家族の意向を反映させ、同意を得ている。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の朝礼と夕禮で利用者様の情報を申し送りして個人記録に記入しました連絡ノートや業務日誌などで情報共有に努めている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様の日々の様子と家人様の思いをお聞きし、出来る限りケアプランに沿ったサービス提供出来るよう努力している。		

自己 外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に届けられる図書館の本や紙芝居を利用している。		
30 (11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所の方は地域のかかりつけ医の往診を受けています。本人様の希望と家族様の希望を出来るだけお聞きし、適切な医療を受けておられます。主治医の専門外は後日受診していただいている。	近医のかかりつけ医の往診により緊急時のサポートも含め、適切な医療を提供している。必要時、精神科・皮膚科などは家族の協力を得て受診支援をしている。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護師は不在ですが、かかりつけの医師等に相談し、何かあれば連絡・報告し適切な受診や看護を受けている。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけの病院と連携を取り、緊急時速やかに対応できる体制を整えている。入院時も病院・家族様と定期的に連絡をとり、退院の準備を行っている。		
33 (12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、本人様・家族様の意思を確認介護計画書を作成し、定期的に地域の担当者を交えて担当者会議を行い、本人様・家族様の希望に沿った支援を行っている。	入居時に終末期に向けた意向の確認をしている。重度化になった場合は改めて家族の意向を確認し、入院になる場合や施設で看取る場合がある。職員の不安を少なくするため、研修を実施している。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回必ず全職員が消防署にて心肺蘇生訪やAEDの使用方法について講習を受け又心肺蘇生法の大会にも参加しステップアップに努めている。		
35 (13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に1度利用者様と一緒に避難訓練を行っている。避難計画を作成し、定期的に研修を行い災害時の避難方法を全職員が確認している。	★毎月1日を避難訓練の日と決め、様々な想定で実施し、利用者と共に行動する機会になっている。備蓄もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況		
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けを行う時は、優しく・ゆっくり少し大きな声で行っている。利用者様からの訴え時は、傾聴するよう心掛けてプライド・プライバシーに配慮した支援を行っている。	言葉遣いには気を付け、丁寧にゆっくりと声掛け傾聴し、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないよう配慮した支援を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の思いに添えるように自己決定しやすい声掛けを工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様の趣味や興味のあることをお聞きし、本人様のペースを大切にして、協力しながらできるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様に着替えなどを選んでいただき、できることは自分でしていただけるような支援を行っている。また、髪剃りなどをhattり、希望があればヘアカラーを依頼したりして		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備などできる方には職員と一緒に行っていたいている。また、メニューはリクエストをお聞きしてそのリクエストをメニューに付け加えている。	★月に1度献立にリクエストを取り入れたり、元調理師の利用者が作る料理を楽しんだりして、皆で美味しく食事が出来ている。玉ねぎの皮むきをしたり、片付けを手伝ったりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を毎日確認して記録に残し摂取量の把握をしている。水分が足りていない方は、声掛けをし午後から多めに飲んでいただいたり、朝起床時毎日コップ1杯飲んでいただくようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔ケアをしている。自分でされている方は声掛けをさせて頂いている。介助が必要な方は職員が介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的にトイレの声掛けやトイレ案内をして排泄が出来るように支援している。また、個人記録に排泄の状態を記録し、声掛けをしている。	排泄の状態を記録し、定期的に声掛けをして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中は体操や散歩などを職員と一緒にを行い、早朝の水分補給やヨーグルト、牛乳などを摂っていただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前は必ずバイタルチェックをし、個別に声掛け・案内を行っている。1人ずつ安全に入浴して頂いている。	★一人ひとりの希望に合うよう入浴を支援している。入浴後は整髪が得意な利用者が手際よく仕上げている。入浴が困難な利用者には特浴の設備があり、活用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	医師とも相談し日中居室で休むなどしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している薬の目的や副作用・用法・用量等を医務記録で確認している。服用時には、マニュアルに沿って行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ禍で外出支援は難しいが人の少ない所へのドライブ等楽しく日々を過ごしていただけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナウイルスの影響で外出支援は出来ていない。屋内で1人1人の希望に沿った行事を行い、楽しんで頂けるよう支援している。	コロナ禍で遠出はできないが、晴れているときは近くの鳥居まで散歩に出掛けたり、竹林公園に出かけることもある。屋内で気分転換し、ミニ運動会など楽しんでもらえるような行事をとりいれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を持持したり使えるように支援している	お金の管理が難しいため施設の方で、預かり管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様から電話があった際は会話できるよう支援している。手紙を出される時は切手等のチェックをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関の掃除は行き届き、花が飾られめだが泳いでおり、面会スペースも季節の花を飾っている。	★玄関ホールには鉢植えやメダカの水槽があり、ピアノがある。手作りの作品展示は、面会に訪れた家族や知人にも喜んでもらっている。居間には大きな窓から日差しが届き、ソファ等配置し、ゆったりと居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中居室で休まれる利用者様は2,3名程おられるが、他の利用者様はリビングで過ごされている。仲の良い利用者様同士で話をされたり、思い思いの過ごし方が出来るように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使っていた布団、タンス等を持ち込まれている。お誕生日の時のお花や、カードも飾っている。	コロナ感染対策として、部屋の換気に気を付けています。毎年の誕生日の顔写真入り色紙は、年の流れを感じられる。使い慣れた家具等で居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	同線上に障害物が無いよう気を付けている。また、手すりや安全に配慮した空間づくりを行っている。		

自己評価および外部評価結果

【西街】

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外 部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
		実践状況		
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、朝の朝礼(申し送り)後に事業所内に掲示してある基本理念などを唱和し、その基本理念を基に支援を行っている。		
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われている行事には、コロナ禍で参加できていないですが、施設内での行事、イベントなどの行動は広報誌などを配りお知らせしている。		
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所内の認知症の研修に取り組み、認知症の方への理解や、適切なアドバイスができるようにしている。		
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催し、グループホームの取り組み、ヒヤリハットや事故事例の報告、地域とのつながりが持てる意見貢献を行っている。		
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者との連携は密に行えている。		
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内の研修で身体拘束の勉強会を行い、身体拘束とはどんな事が当てはまるのかを再度しっかりと確認をし、マニュアルを理解し身体拘束防止に努めている。 3ヶ月に1度身体拘束適正化委員会を行い、職員に議事録を回覧している。		
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	施設内の研修を行い虐待の理解を深め防止に取り組んでいる。 虐待防止マニュアルも策定している。 12/1高齢者虐待防止委員会を立ち上げる。		

自己 外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				次のステップに向けて期待したい内容
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内の研修で権利擁護等の研修を行い支援につなげられるようにしている。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはご家族様、ご入居者様の不安、疑問が残らないように説明を行い、理解納得を得られるように努力している。		
10 (6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご本人様、ご家族様の要望や意見をお聞きする機会を設けている。 会議等で職員に伝え対応している。		
11 (7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	所長、管理者は、職員と面談を行い、要望を聞き取りまとめ管理者会議等で話し合いをしている。		
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている	勉強会研修会を行いキャリアアップにつながるよう各職員が向上心を持って働くよう職場環境を整えている。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得を推奨し、研修を受ける機会の確保に努めている。 研修案内を配布している。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナの為、相互研修は中止されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、ご本人様と面談を行い、アセスメントによる情報を把握している。また、ご利用者様お1人お1人とコミュニケーションを取り要望や困り事等を聞き、安心して生活して頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、ご家族様の要望をお聞きし、思いに寄り添いより良い関係を保てるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様ご家族様の要望に対して、聞くだけでなく、前ケアマネージャーの意見を参考にして支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様の思いや、何が不安なのかを知り、共に支えあう関係を作り、ご本人のできることと一緒にに行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と情報共有を行っている。ご利用者様の思いに寄り添いながら、窓越しだが、面会や電話、タブレットを使用し密に支えあえる関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様お一人お一人がなじみの場所に行って頂けるように努めている。 知人や馴染みの方が来られたら窓越しで面会をして頂いている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様お一人お一人との関係をしっかりと把握したうえで、洗濯干しやたたむなどを一緒にを行い、ご利用者様同士が関わりあえるように支援している。		

自己 外 部	項 目	自己評価 実践状況	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も、必要に応じてご家族様にその後の様子を尋ねさせていただき、アドバイス等を行い、フォローに努めている。		
23 (9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用様との会話の際に、昔のことなどをお聞きして安心して穏やかに生活できるようにしている。		
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様、ご家族様から話をお聞きし、情報アセスメントシートにて職員が情報共有出来るようにしている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ご利用者様の心身状態を観察し、日々の様子を記録して、朝礼と各ユニットでの夕禮で、職員が把握できるように努めている。		
26 (10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングを行い利用者様の変化を細かく記録している。変化のある利用者に対し、本人・家族様の意向を反映し計画書の作成を行っている。		
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の朝礼と夕禮でご利用者様の情報の申し送りをしている。また、個人記録の記入、また連絡ノートや業務日誌などで、情報共有に努めている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様の日々の様子と家人様の思いをお聞きし、出来る限りケアプランに沿ったサービス提供出来るよう努力している。		

自己 外 部	項 目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
		実践状況		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を發揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本や紙芝居を借りて来て、絵本の読み聞かせやかみしばいを見て生活を楽しむことができている。		
30 (11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所の方は地域のかかりつけ医の往診を受けています。本人様の希望と家族様の希望を出来るだけお聞きし、適切な医療を受けておられます。主治医の専門外は後日受診して頂いています。		
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝え相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護師は不在ですが、かかりつけの医師等に相談し、何かあれば連絡・報告し適切な受診や看護を受けている。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるよう、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係	かかりつけの病院と連携を取り、緊急時、速やかに対応できる体制を整えている。 入院時も病院、ご家族様と定期的に連絡を取り、退院の準備を行っている。		
33 (12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいます	入居時、本人様・家族様の意思を確認介護計画書を作成し、定期的に地域の担当者を交えて担当者会議を行い、本人様・家族様の希望に沿った支援を行っている。		
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けています	年1回必ず全職員が消防署にて心肺蘇生法やAEDの使用方法について講習を受け又心肺蘇生法の大会にも参加しステップアップに努めている。		
35 (13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に一度ご利用者様と一緒に避難訓練を行っている。 避難計画を作成し、定期的に研修を行い災害時の避難方法を全職員が確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況		
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人の思いを尊重し、優しくゆっくりと少し大きめの声で行っている。 ご利用者様からの訴え時には傾聴するよう心掛けて、プライドやプライバシーに配慮した支援をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の思いに沿えるように、自己決定しやすい声掛けを工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様の趣味や興味のあることをお聞きし、ご本人のペースを大切にして、協力しながらできるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様に着替えなどを選んでいただき、出来ることは自分でして頂けるような支援を行っている。また、髪剃りなどを行ったり、希望があればヘアカラーを依頼したりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備などできる方には、職員と一緒に行っていただいている。また、メニューはリクエストをお聞きしてそのリクエストをメニューに付け加えている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を毎日確認している。水分が足りていない方は、次の日に多めに飲んでいただくようにしている。 また、毎日記録に残し、摂取量の把握をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔ケアをしている。自分でされている方は声掛けをさせて頂いている。介助が必要な方は職員が介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的にトイレの声掛けやトイレ案内をして排泄ができるように支援している。 また、個人記録に排泄の状態を記録し、声掛けをしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中は体操や散歩などを職員と一緒にを行い、早朝の水分補給やヨーグルト、牛乳などを摂っていただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前は必ずバイタルチェックをし、個別に声掛け・案内を行っている。1人ずつ安全に入浴して頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて声掛けし、安心して休んで頂けるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している薬の目的や副作用・用法・用量等を医務記録で確認している。服用時には、マニュアルに沿って行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の生活歴や趣味などを大切にして楽しく日々を過ごして頂けるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在の外出支援は近場に車でドライブに出かけて楽しんでいただけるよう支援している。 室内での行事を行い、気分転換を図っている。		

自己 外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を持持したり使えるように支援している	お金の管理が難しいため施設の方で、預かり管理している。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様より電話があった際はご利用者様に代わり会話ができるよう支援している。また、中には絵葉書一言メッセージを書かれて、家族様へお出ししている。		
52 (19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除は基本職員が毎日行っている。拭き掃除ができるご利用者様には、ハンドタオルを使用してご自分で掃除をされている方もおられます。		
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中居室で休まれる利用者様は2,3名程おられるが、他の利用者様はリビングで過ごされている。仲の良い利用者様同士で話をされたり、思い思いの過ごし方が出来るように支援している。		
54 (20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使っていた布団、タンス等を持ち込まれている。お誕生日の時のお花や、カードも飾っている。		
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線上に障害物がないよう気を付けている。また、手すりや安全に配慮した空間作りを行っている。		

自己評価および外部評価結果

【東街】

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外 部	項目	自己評価	外部評価
		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1 (1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念が玄関、事務所内に掲示しており、毎日朝礼・申し送り後唱和し、職員で共有している。	
2 (2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われている行事には、コロナ禍で参加できていないですが、施設内での行事・イベントなどの行動は広報誌などを配りお知らせしている。	
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所内の認知症の研修に取り組み、認知症の方への理解や適切なアドバイスができるようにしている。	
4 (3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催し、グループホームの取り組み、ヒヤリハットや事故事例の報告、地域とのつながりがもてる意見交換を行っている。	
5 (4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から包括支援センター等に出向き報告等を密にしている。	
6 (5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内の研修で身体拘束の勉強会を行い、身体拘束とはどんな事が当たはまるのかを再度しっかりと確認をし、マニュアルを理解し身体拘束防止に努めている。 3ヶ月に1度身体拘束適正化委員会を行い、職員に議事録を回覧している。	
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	施設内の研修を行い虐待の理解を深め防止に取り組んでいる。 虐待防止マニュアルも策定している。 12/1高齢者虐待防止委員会を立ち上げる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日頃から権利擁護等の研修を行い支援につなげられるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、家族、利用者様の不安、疑問が残らないように時間をかけて説明を行い、理解、納得を得るようしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様・家族様の要望や意見をお聞きする機会を設け会議等で職員に伝えて対応している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	所長・管理者は、職員と面談を行い意見・要望を聞き取りまとめ管理者会議等で話し合いをしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている	勉強会研修を行いキャリアアップにつながるよう各職員が向上心を持って働くよう職場環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得を推奨し、研修を受ける機会の確保に努めている。 研修案内を配布している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナの為、相互研修は中止されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人と面談を行い、アセスメントによる情報を把握している。利用者様お1人お1人とコミュニケーションをとり要望や困り事等を聞き、信頼して頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前、家族様とお話しして、要望をお聞きし、思いに寄り添うように努めている。入居後も変わったことがあればこまめに連絡している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族様等の要望を聞くだけではなく、前ケアマネ等の意見も参考にして支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の思いや不安を知り、共に支え合う関係をつくり、普段から本人のできることを一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様と家族様の思いに寄り添いながら窓越しだが自由な面会や電話を通して密に支えあえる関係を築いている。家族様との情報共有・信頼関係に力を入れている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の知人が来所されても気兼ねなくお話しできるスペース・空間を設けている (窓越し面会)		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様お一人お一人との関係をしっかりと把握したうえで日常生活の中で、一緒に洗濯物を干したりたたむなどご利用者様同士が関わりあえるように支援している。		

自己 外 部	項 目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
		実践状況		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された場合も必用に応じて家人様にその後の様子を尋ねさせていただき、アドバイスなどを行いフォローに努めている。		
23	(9) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様と会話をして昔の本人様のご様子を聞き取り、安心して穏やかに生活出来るようにしている。		
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様・家族様から話を聞きし、情報アセスメントシートにて職員が情報共有出来るようにしている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	利用者様の心身状態を観察し、日々の様子は記録して、朝礼や夕礼で、ご利用者様の情報を共有し把握できるように努めている。		
26	(10) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングを行い利用者様の変化を細かく記録している。変化のある利用者に対し、本人・家族様の意向を反映し計画書の作成を行っている。		
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の朝礼と夕礼で利用者様の情報を申し送りして個人記録に記入し、また、連絡ノートや業務日誌などで情報共有に努めている。主治医とも連絡を密にしているので早めに対応している。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様の日々の様子と家人様の思いをお聞きし、出来る限りケアプランに沿ったサービス提供出来るよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	職員が飼っている犬と利用者様と触れ合う場を設けている。また、近くの図書館から持ってきていただいた本を読み聞かせしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所の方は地域のかかりつけ医の往診を受けています。本人様の希望と家族様の希望を出来るだけお聞きし、適切な医療を受けておられます。主治医の専門外は後日受診していただいている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護師は不在ですが、かかりつけの医師等に相談し、何かあれば連絡・報告し適切な受診や看護を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるよう に、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係	かかりつけの病院と連携を取り、緊急時速やかに対応できる体制を整えている。入院時も病院・家族様と定期的に連絡をとり、退院の準備を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組ん	入居時、本人様・家族様の意思を確認介護計画書を作成し、定期的に地域の担当者を交えて担当者会議を行い、本人様・家族様の希望に沿った支援を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回必ず全職員が消防署にて心肺蘇生 訪やAEDの使用方法について講習を受け 又心肺蘇生法の大会にも参加しステップアップに努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に1度利用者様と一緒に避難訓練を行っている。避難計画を作成し、定期的に研修を行い災害時の避難方法を全職員が確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況		
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けを行う時は、優しく・ゆっくり少し大きな声で行っている。利用者様からの訴え時は、傾聴するよう心掛けてプライド・プライバシーに配慮した支援を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の思いに添えるように自己決定しやすい声掛けを工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様の趣味や興味のあることをお聞きし、本人様のペースを大切にして、協力しながらできるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様に着替えなどを選んでいただき、できることは自分でしていただけるような支援を行っている。また、髭剃りなどを行ったり、希望があればヘアカラーを依頼したりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備などできる方には職員と一緒に行っていたいている。また、メニューはリクエストをお聞きしてそのリクエストをメニューに付け加えている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を毎日確認して記録に残し、摂取量の把握をしている。水分が足りていない方は、声掛けし午後から多めに飲んでいただいたり、朝起床時毎日コップ1杯飲んでいただくようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔ケアをしている。自分でされている方は声掛けをさせて頂いている。介助が必要な方は職員が介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的にトイレの声掛けやトイレ案内をして排泄が出来るように支援している。また、個人記録に排泄の状態を記録し、声掛けをしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中は体操や散歩などを職員と一緒にを行い、早朝の水分補給やヨーグルト、牛乳などを摂っていただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前は必ずバイタルチェックをし、個別に声掛け・案内を行っている。1人ずつ安全に入浴して頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて声掛けし、安心して休んで頂けるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している薬の目的や副作用・用法・用量等を医務記録で確認している。服用時には、マニュアルに沿って行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみなことや嗜好品などをお聞きし喜んで日々を過ごして頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出支援は出来ていないが、屋内で楽しんでいただけるよう支援している。お茶会の時にはご利用者様にお茶をたてていただき皆さんで召し上がっていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が難しいため施設の方で、預かり管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様が電話をかけてこられた際、利用者様に代わり会話が出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関にはメダカが泳いでいたり、花を飾るなど季節を感じられるような工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中は居室で過ごされたりベランダで日光浴されています。また、利用者同士でお話ししたり作品作りをされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使っていた布団、タンス等を持ち込まっている。お誕生日の時のお花や、カードも飾っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線上に障害物が無いよう気を付けている。また、手すりや安全に配慮した空間づくりを行っている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かつたり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくなるよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域で行われている行事はコロナ禍で地域交流が出来ていない。	広報誌で施設内の行事等を紹介し地域家族とのつながりを深めていく。家族会等。	事前に計画した行事など取り組みを報告し地域や家族に参加して頂く。運営推進時報告する。	12ヶ月
2	3	コロナ禍で長期間にわたり外出や面会も窓越し面会にして制限している。	面会が自由にできるように面会室の設置検討。	利用者様が楽しめる事、面会、外出支援に力を入れる。	即実行
3					12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。